

カリキュラム 区分		授業 科目	人間のことばと文化 Language and Culture			担当 教員	藤代 節 (専任)
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	看護学の基盤となる科目Ⅰ	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>人間言語と文化の諸相の関わりについて考察する。授業においてはまず人間言語全般の諸特徴について概説する。その後、一般言語学についての講義を進める。また国内外で使用されている現代語をいくつか選び、当該言語の使用される背景を考慮しながら、ことばと文化の関係について考える。受講者の興味や既習言語に応じて、授業中に取り上げる言語を決めたい。なじみのない言語については授業時間を利用して文字や音声、極々初歩的な文法特徴などにしたしむ。2010年度は、沖縄語、アイヌ語、エスペラント語、日本語方言などを扱った。</p>					
授業のキーワード		言語、文化、人間					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
1回	世界の言語と日本の言語(「大」言語・「小」言語・「極小」言語、他)						
2回	人間言語の諸特徴1(言語と言語学、他)						
3回	人間言語の諸特徴2(言語の恣意性、媒体切り替えの可能性、分離性・非連続性、他)						
4回	人間言語の諸特徴3(能記と所記、ラングとパロール、他)						
5回	音声学(調音器官、国際音声字母、他)						
6回	音韻論(音素)						
7回	形態論1(形態素)						
8回	形態論2(語構造、語形成)						
9回	統語論1(統語範疇:性、格、時制、法、態、他)						
10回	統語論2(統語現象:一致、格)						
11回	意味論1(時制、他)						
12回	意味論2(前提・含意、他)						
13回	語用論(「夜明けのコーヒー二人で飲もう」、他)						
14回	方言学(言語地理学、日本各地の方言を聴く)						
15回	まとめ 小論文を含む提出物作成(予定)						
テキスト		特に指定しない。					
参考文献		授業中に提示します。					
成績評価の方法と基準		<p>講義期間の最終回に行う小論文(レポート)を中心とする試験(80%)と平常点(20%)による予定。受講人数によっては評価方法を変更する可能性があります。その場合は授業中に知らせます。</p>					
教員から学生へのメッセージ		予備知識は必要ありませんが、なじみのない言語に取り組む意欲を持って受講されたい。					